

日本大学
生物資源科学部
農獣医学部

校友会会報

2000 第53号



六会日大前駅より望む湘南キャンパス

《目 次》

平成12年度総会・懇親会……………2	工学会（農業工学科・生物環境工学科）……………13
支部との関わり・校友会の発展……………3	F T会（食品工学科・食品科学工学科）……………14
I Tと学部への対応……………4	拓友会（拓植学科・国際地域開発学科）……………15
学生と校友会を結ぶ名簿・キャンパス便り…5	むつあい会（短期大学部農学科）……………16
農学校友会（農学科・植物資源科学科）……………6	生活環境学科校友会
紫友会（農芸化学科）……………7	（短期大学部生活環境学科）……………17
角笛会（獣医学科）……………8	応用生物科学科校友会
満喜葉会（畜産学科・動物資源科学科）……………9	（応用生物科学科）……………18
いもづる会（食品経済学科）……………10	支部だより……………19
あすなろ会（林学科・森林資源科学科）……………11	校友だより（口蹄疫雑感）……………21
桜水会（水産学科・海洋生物資源科学科）……………12	父の母校に入学して・校友会役員・事務局名簿……………22

平成12年度総会と懇親会



総会会場と挨拶
する茂澤会長(上)

平成12年度総会は会則に従い7月8日(土)15時より湘南校舎10号館第4講義室で開催された。木村貞司事務局長の開会宣言に始まり茂澤会長挨拶、議長には冨澤寿樹副会長が選出され議事へと進行した。

議事は平成11年度の一般経過報告、会計決算報告(収入36,905,430円、支出36,905,430円、基金積立金10,027,953円、名簿積立金4,472,339円)に関する報告がなされ、西山栄一監査による監査報告があり承認された。

ついで平成12年度の事業計画に関して会員数74,692人、準会員7,774人が報告されたのち総会、懇親会、会報発行、校友会の発展と今後の対応などが説明された。これらに必要な予算として収入は37,910,000

円、支出は37,910,000円、基金積立金14,027,953円、名簿積立金4,972,339円の予算案が示され審議の後承認された。また8番目の支部として福島県支部の設立が承認され林慎平支部長より挨拶があった。

懇親会は食堂棟3階のNUSCホールに会場を移し、50余名の来賓と88名の会員を迎え茂澤会長挨拶の後來賓として日本大学校友会副会長田澤智治先生、日本大学副総長大谷利勝先生ならびに生物資源科学部学部長佐々木恵彦先生より祝辞を頂戴した。さらに来賓紹介の後、前学部長門田定美先生の音頭で乾杯が行われ、歓談へと移った。

本年は久しぶりの湘南キャンパスのためか思い出に花咲く会となった。最後は冨澤副会長の閉会の辞でお開きになった。

平成12年度 校友会懇親会 日本大学生物資源科学部



「支部との関わり」

日本大学生物資源科学部校友会

会長 茂 澤 杲



私達の学部校友会には、現在8支部がありそれぞれがその地域に根差した活動を展開し、結束して校友のためと母校興隆発展に寄与しています。秋田県をはじめ山形県、福島県、山梨県、高知県、大阪府、それに日本大学校友会神奈川県支部生物資源科学部会として台湾支部です。また、各県支部、部会、海外支部が、日本大学校友会本部の支部とも連動して、但に地域の発展のみならず、国際化交流にも貢献する原動力として関わっています。今年2月19日山形県支部（木戸啓二会長）が、天童市の「つるや」で総会・懇親会を開催され、多数の会員参加のもと講演会ほかのイベントに役員スタッフが結束し、その真摯な運営努力には心から敬意と謝意を表しました。また、5月12日には福島県支部（林 慎平会長）が、白河市の林養魚場で設立発会され、学部校友会8番めの支部誕生となりました。誠にご同慶の到です。

思いますに、1支部誕生には、その地域の校友をほりおこし、相和する校友が大変なエネルギーを注ぎ込みながら、着々と活動をすすめられ、県内の工学部校友会のご後援を得て、発会されました。名簿の作成、役員の決定などその図式は誠に見事です。熱心なスタッフの結実と申せましょう。

8月26日高知県支部（中西正昭会長）が、高知市ホテル高砂で10月14日山梨県支部（小越昭雄会長）が石和市石和観光ホテルで総会懇親会を開催されます。支部校友もまた母校を愛し、母校に関心を寄せ校友会の目的達成のため、その活動を着実に推進して行こうとの校友魂の発露であり誠に喜ばしい限りです。学部校友会は、支部活動を強力に後援し発展に應えたいと思います。おわりに、会員皆様のご健勝とご活躍を心から祈念申し上げます。

（日本大学評議員・日本大学校友会副会長）

校友会の発展と今後の対応

学部校友会副会長 村 田 昇

1. 「校友会の明日を考える会」発足の経緯

新たなミレニアムを迎え、すでに9ヶ月、21世紀が目前となりました。夢の技術を実現すべく毎日のように、技術革新のニュースがメディアを賑やかにしております。

特にインターネットを中心とした情報技術、情報通信技術（IT）の革命、革新が社会を大きく変えようとしています。この事実の認識とその必要性を疑う者はいないでしょう。10数年前から、国際化、高齢化、小子化、そして情報化がキーワードとして出現してきましたが、とりわけ、情報化に関しての技術革新は目ざましいスピードで進化してきました。学校当局ではいち早く、キャンパスの環境整備を始め、目前にせまった小子化対策等の諸策を打ち出し、積極的な対応に着手しています。

さて、学部校友会は本年度で創立53年、会員数7万人を大きく突破した組織となっており、会員の年齢構成は20才～80才超、大きな広がりをもつようになってきました。

すなわち、文字どおり老若男女とともに、校友会草創期の会員にとって、子供、孫との参加、活動が現実のものとなってきています。

このような年齢層が大きくなってきている状況のなかで、校友会の位置づけ、運営方法事業内容等に

ついて、変化を求める種々な意見がでてくるようになってまいりました。分会によっては役員の若返りもあって、校友会が今まで伝統のなかで常識、慣行として許容され、運営してきたいくつかの事項について疑問を持ち、分会特有の課題も抱えていることもあいまって、分会の悩み、校友会の存続にもかかわるとの危機感を持つ役員も出現し、幹事会等の集会において活発に建設的な意見が述べられるようになってきています。親睦を第一の目的として創立され、役員は皆、ボランティアとして活動しているとはいえ、学部校友会は会員数7万人超の大きな組織であり、13分会、8支部の親組織として、また、学部当局と車の両輪の片方を担う組織、よきパートナーとして、時代にマッチした変化が求められ、平成11年7月の総会においても種々意見が出、平成11年10月学部校友会に「校友会の明日を考える会」が発足しました。

2. 校友会の発展に向けての当面の重点課題

会の発足以来、先ず現状認識として役員、事務局を対象にアンケート、聞き取り等を実施し、検討課題として28項目を抽出、更に各分会の共通度をバロメータに最優先すべき重点課題として以下の4項目を選定し、今後具体的に検討を進め実行することを平成12年7月の総会において中間報告し、承認されました。

- ① ホームページ等を活用した学生等若手会員への校友会PRの充実
- ② 校友会財源の安定化（終身会費徴収の統一）

- ③ 分会事務作業の省力化、共通事務の統合
- ④ 学部校友会事務所スペース改善、事務局員の増強

3. 今後の対応について

重点課題については、分会長を中心とした学部校友会独自の「校友会の明日を考える会」（世話人、村田昇）において具体的方法、特に人、財源等解決すべき諸問題について審議決定し、実行可能な事項から行動に移行していくこととしていきたいと考えています。また、学部当局の御協力、御支援なくして実現が容易でない事項も多々ありますので、学部校友

会執行部を中心に学部当局との積極的なコミュニケーションの機会を構築し、より良い成果を追求、実現していきたいと考えています。

また、重点課題の改善には会則改訂の必要性も内包しておりますので、会則改訂も含めタイムスケジュールとしては、平成13年7月の総会までを一つの目標リミットとして関係者一同、精一杯努力する所存であります。

目標達成には会員皆様の大いなる関心と御教示、御鞭撻が是非必要と考えます。御協力の程よろしくお願い申し上げます、報告といたします。

I T (情報通信技術) と学部の対応

情報科学担当

山 本 一 彦

以前からの懸案でありました学部レベルでの電子メディアの整備がようやく本格化してきたように思われます。これは湘南校舎12号館（実験実習棟）の完成と、現在進められている新本館棟の中身が見えてきたことに大に関係しますが、これにより大学・学部の学生への種々のサービスが一段と強化されます。それらを簡単に紹介したいと思います。

まず、学部のHP（ホームページ）が本年6月末から一新され、公開されました。このHPには各研究室の内容紹介が盛り込まれておりますので、卒業研究のため研究室を選ぶ学生にとって役立つことはもちろん、他大学・研究機関との交流の輪を広げることに、そして本学部への入学を志願する受験生に学部の内容をより一層知ってもらうことにも利用されます。また校友にとっては母校の動向が一目瞭然となることでしょう。ここには校友会のHPもリンクされています。

次に4年生（短大は2年生）以上の希望学生に電子メールアドレスを5月から、さらに3年生にも9月から交付致しました。学生諸君の情報交換や就職活動に大いに役立つものと期待されております。現在、研究室やコンピュータ実習室、それに学生ホール等でメールの送受信が可能となっておりますが、今後は1、2年生にもメールアドレスの交付を進めていく予定です。

ハード面では12号館の全講義室の教卓に各種メディアの操作装置が備えられ、それによってOHPやパソコン画面のスクリーンへの投影が可能となり、授業への活用が期待されています。このような教室のマルチメディア化は全ての講義室にもやがて設備されることとなるでしょう。

これらの電子メディアの整備は2001年末に完成する新本館棟内に設置されるコンピュータネットワーク管理室（仮称）によって、より完ぺきなものとなっていくでしょう。



室際のスクリーンにはパソコンからのカラー図柄が投影される



12号館 講義室（大） 天井に吊されたプロジェクター、後方はテレビモニター

日本大学全国校友大会

- 目 的 全国の日本大学出身者が学部を超えて一堂に会し、日大としての絆を深める。大学の協力を得て、母校の現状を音と光と映像で再認識することで、母校愛の高揚を図る。
- 日 時 平成12年12月4日（月）午後6時開場 午後6時30分開演
- 場 所 赤坂プリンスホテル 新館2階（クリスタルパレス）
東京都千代田区紀尾井町1番2号
TEL03（3234）1111
地下鉄銀座線・丸の内線「赤坂見附」駅下車徒歩1分
地下鉄南北線・半蔵門線・有楽町線「永田町」駅下車徒歩1～2分
- 対 象 日本大学卒業生・役員教職員
- 定 員 先着1300名（会費納入者が定員に達し次第締め切ります）
- 会 費 12,000円
- 申し込み 日本大学校友会本部事務局庶務課
（参加申込書を郵送いたします）
TEL03（5275）8280

学生と校友会を結ぶ名簿

就職指導課閲覧室にCD-ROM盤名簿設置

今までは準会員である在学生と、校友会との間にはなかなか理解されない部分もあった。就職資料室におかれたCD-ROM盤の全会員名簿は、準会員である学生が自由に閲覧、検索することができる。このメディアを通して双方に新たなつながりが作られるものと期待されている。各界に活躍する学部諸

先輩は7万5千人にも達し、その潜在能力が在学生に伝わることは両者の溝を埋めるなど計り知れない効果が期待される。

しかし、このような情報革命の新たな媒体を利用するとき、双方のマナーも危惧される時代となった。



キャンパス便り

12号館の完成に伴い4月より、食品科学工学科と農芸化学科の移転が一通り完了いたしました。この12号館の6階には食品学、食品機能化学、食品衛生学、5階には食品微生物学、食品製造工学、食品化学工学等食品科学工学科関連の各研究室があります。4階には農芸化学科関連の生物有機化学、土壌学、植物栄養生理学、3階には微生物学、酵素科学、食品化学、栄養生理学の研究室が配置されています。



12号館内のコーヒーショップ



新設本屋さん

各研究室ともまぶしいほどの明るさでいっぱいです。

また1階に相当するガレリア階には学生課、教務課、パソコンや雑誌等を扱う購買施設、見学・研修旅行に便利な旅行会社、写真屋等が設置されています。

さらに本館も順調に工事が進行し、完成が期待されています。

受け継がれたケヤキの命

日本大学附属藤沢高等学校の通学路にはみごとにケヤキ並木が存在していた。高校の新校舎建設に伴い、その雄大なケヤキは1本も命を落とすことなく大学のキャンパス内に移植され活着している。

このケヤキは高校在職中の現動物資源科学科教授、長野實先生の肝いりで昭和41年に植栽されたものである。また、小田急線沿線には同年林学科、栗田、簗田、加藤、片岡先生方の指導のもと、テングス病に強い大島桜60本が高校生と大学生の協力のもとに植栽された。

いずれもキャンパスの充実に伴い。学生の心をやすめる機能を発揮すると考えられる。



移植されたケヤキ

農 学 校 友 会

◇農学科・植物資源科学科◇

連絡先 作物学研究室
0466-84-2100 事務局長 藤井 秀昭

平成12年度総会・懇親会開催

5月13日(土)に湘南校舎の第2講義室にて総会が開催されました。主な議題は1)平成11年度事業報告と会計決算報告2)平成12年度事業計画案と予算案3)50周年事業体制ならびに経緯報告があり、すべての議題が審議され、満場一致で承認されました。議事の終了後にこれまで農学校友会の発展にご尽力下された前会長西鳥羽曙氏、同副会長浅野明氏、同副会長古川仁朗氏に記念品が贈呈され、3氏は今後相談役、顧問としてご協力願うことが了承されました。また、これまで校友会事務局運営にご尽力下された元庶務理事坪木良雄教授、元事務局長篠原正行元教授に記念品の贈呈がなされました。その後、学生会館の3階にて懇親会が行われ、盛会裡に終了しました。



記念品の贈呈

創立50周年記念事業体制について

農学校友会は平成15年(2003)に創立50周年を迎えます。平成9年の理事会で創立50周年記念事業準備委員会が決められ、各種委員会は理事を中心に構成され、記念式典に向けて各種委員会が活動しております。

・記念式典委員会

◎石川稔矩、志村英世、鈴木清一、市川 靖、葉山博史、井上弘明、磯部勝孝

・記念誌委員会

◎浅川廣治、久保田昌幸、小木曾裕、川上徹也、近藤美恵、太田敏史、西鳥羽曙、古川仁朗、西山栄一、石井賢治、坪木良雄、勝野武彦、葉山嘉一

・記念品委員会

◎芦川藤吉、遠田光雄、赤木洋行、野村和成、百瀬博文

・名簿委員会

◎坂倉龍彦、宮川保男、坂本立弥、佐々木透、久延一郎、岩野秀俊、立石 亮

(敬称略)

注)会長、副会長、庶務理事、事務局長はすべての委員会に対応する。

学科の近況

学科主任は勝野武彦教授が、大学院農学専攻主任は福原敏彦教授、付属農場長は勝野武彦教授が兼任、米田和夫教授は学部執行部の就職指導担当に就任され、活躍しております。

学科も名称変更されて今年で5年目を迎え、1年次より新カリキュラムの体制で教育がなされております。新カリキュラムの特徴は、コース制ではなく、植物資源生産学系、植物資源生産制御学系ならびに緑地環境学系の3学系に大別し、3年次以降はこの学系の専門分野の科目を受講し、各研究室(8研究室)の指導教員に指導を受けるシステムに大きく変わっております。

今年度の学生数は1年次が171名、2年次が193名、3年次が130名、4年次が183名で合計677名(内48%が女子学生)の学生が在籍して勉学に励んでおります。

長年に亘り教鞭をとられました篠原正行教授(植物病理学研究室)が3月31日付で、また、石井賢治教授(遺伝育種学研究室)が11月5日付で定年退職されました。両先生には長年学科の発展と学生の教育・研究にご尽力下さり深く感謝申し上げます。今後共ご健康でご活躍されます事をお祈り申し上げます。

2人のご退職に伴ない、今年4月より新たに、池橋宏教授(遺伝育種学研究室)が京都大学より、前田孚憲教授(植物病理学研究室)が岡山大学より着任されました。

また、窪田聡助手(花卉園芸学研究室)が国際稲研究所より着任され、3先生の益々のご活躍が期待されます。



池橋教授



前田教授



窪田助手

事務局より

平成12年7月1日より校友会の事務局長は勝野武彦教授より藤井秀昭助教授に交代され、また、庶務理事は米田和夫教授より勝野武彦教授に交代されました。庶務係は百瀬博文専任講師が、会計係は磯部勝孝専任講師が引き続いて担当されます。

事務局長 藤井秀昭 Tel, Fax 0466-84-2100

庶務係 百瀬博文 Tel, Fax 0466-84-2101

会計係 磯部勝孝 Tel, Fax 0466-84-2100

(井上弘明)

紫 友 会

◇農芸化学科◇

連絡先 植物栄養生理学研究室

0466-84-3957 事務局長 長谷川 功

E-mail: isaohase@brs.nihon-u.ac.jp

湘南校舎で新たなスタート

農芸化学科は本年3月に長年住み慣れた世田谷区下馬の東京校舎から湘南校舎に無事移転いたしました。農芸化学科すべての研究室、実験準備室などの関連施設・設備も同時に移転し、本年4月の新入生より卒業まで一貫して湘南校舎で受講することになりました。農芸化学科の研究室等は、毎年体育大会などが開かれている湘南校舎グランド脇のテニスコート跡地に新たに建設された12号館内に移転いたしました。

学科実験室風景



学 科 の 近 況

山本一彦教授は昨年10月より学部執行部情報科学担当として活躍されております。



水野教授

ございました。

本年4月1日に水野重樹教授が着任されました。水野先生は東京大学大学院化学系研究科農芸化学専門課程博士課程を修了され、同大学助手、米国ワシントン大学、英国レスター大学、米国メイヨークリニック、東京理科大学でご勤務された後、本年3月まで東北大学教授・同大学大学院農学研究科長を歴任されておりました。本農芸化学科では酵素科学研究室(旧微生物化学研究室)を主宰されております。分子生物学、生物化学などの科目を担当され、本学科の生体機能・分子生物学分野のさらなる強化が期待されております。

長谷川功先生(植物栄養生理学研究室)は本年4月1日をもって教授に昇格されました。また、高橋令二先生(微生物学研究室)、関 泰一郎先生(栄養生理化学研究室)もそれぞれ助教授に昇格され

ました。

高橋令二先生は米国ニュージャージー医科歯科大学での1年間の留学を終え本年2月に無事帰国されました。熊谷日登美先生(食品化学研究室)は本年3月より日本大学海外派遣研究員として1年間の予定で英国ノッティンガム大学食品科学分野に留学されております。

学部・学科・研究室のホームページ開設

この度生物資源科学部のホームページ(<http://www.brs.nihon-u.ac.jp/>)の中に農芸化学科、各研究室のホームページが開設されました。このホームページを訪れることにより、農芸化学科各研究室の最新の情報(スタッフ、研究テーマ、研究業績、研究のトピックス、研究室の風景など)や学科の近況をご覧頂けます。

平成11年度総会・懇親会を開催

平成11年度の紫友会総会が平成11年11月13日、高輪プリンスホテルで開催されました。総会では茂澤晃会長の挨拶の後、平成10年度の事業報告、決算報告、監査報告ならびに平成11年度の事業計画、予算案について厳正に審議がなされ、いずれも承認されました。

総会の後、多数の来賓と会員が出席し懇親会が盛大に行われました。懇親会には紫友会平成11年度(第6回)奨学生が招待され、懇親会の席上で表彰が行われました。

平成12年度第7回紫友会奨学生決定

紫友会40周年記念事業の一環として発足した紫友会奨学生の第7回生10名が、同奨学生選考委員会(徳山龍明委員長)により厳正に選考され下記のように決定しました。第7回紫友会奨学生の表彰は本年11月の紫友会総会・懇親会時に行われる予定です。

2年次 黒田麻衣子、姫本剛史、河野美千代

3年次 矢萩久美子、糸賀章登、正木智大

4年次 後藤尚美、堀江美奈、吉澤奈穂子

大学院博士前期課程1年 渡邊美生

紫友会事務局より

平成12年度総会・懇親会が11月18日(土)に湘南キャンパス内のNUSCホールで開催されます。総会は午後3時から、懇親会は午後4時から開催しますが、農芸化学科の新しい研究室、学生実験室、共通施設をご覧頂こうと総会の前にキャンパスツアーを計画しております。懇親会では懐かしい顔ぶれから現役学生の紫友会奨学生までが一同に会し、旧交を温め楽しいひとときを過ごせることと思います。また、最近の湘南キャンパスと新しい農芸化学科をご覧頂ける絶好のチャンスかと思ひます。奮ってご出席くださいますようお願いいたします。

(関 泰一郎)

角 笛 会

◇獣医学科◇

連絡先 獣医微生物学研究室
0466-84-3635 事務局長 鎌田 寛

E-mail: kamata@brs.nihon-u.ac.jp

角笛会総会を開催

平成12年度角笛会総会が去る6月24日土曜日午後、湘南校舎第4講義室で開催されました。雨もようであったにもかかわらず、50名余の会員が全国各地から出席されました。先ず、議長に倉林恵太郎（東京都開業 昭36年）氏を選出した後、事務局より11年度事業経過、収支決算、同監査結果（代表小暮規夫氏 東京都開業 昭24年）の報告が行われ、総会により承認されました。平成11年度事業としては、要請のあった多くの支部総会などに対する大学教員の派遣が、例年通り行われました。また、本学出身獣医師会長（9名出席 全11名）と新学部長（佐々木 恵彦 林学科教授 昭34東大卒）との懇親会が酒井健夫学部長（昭41）、福田陽一（昭36）学科主任、田中茂男（昭38）ANMEC院長を交え、日比野次郎（昭14）会長、月瀬 東（昭40）、中川秀樹（昭40）両副会長の陪席の下に開催され、学部と角笛会との対話の礎の一つとなりました。平成11年度総収入は前年度比約5%減となり、各支出も減額しました。次いで平成12年度事業計画及予算が承認されました。平成12年度では従来と変わることなく校友と大学との結びつきの強化を図る一方、終身会員制度の強化を目指すことになりました。獣医学科卒業生は須く角笛会会員です。終身会員制度の促進と共に一般会員への支部による連絡に一層の便を図る為、終身会員名簿の作成とその各支部事務局長への配布が決議されました。予算は引き続き厳しい状況にあるとの認識の下に、緊縮財政運営を継続する事になりました。

また本年度は役員改正の期に当たります。会則に則り、幹事会は新会長に日比野次郎（練馬区開業 昭14）前会長を選出し、総会により承認されました。副会長（3名）には月瀬 東（解剖学教授：留任）、田村幸生（前橋市開業 昭45：新任）、鳥海 弘（伊勢原市開業 昭50：新任）各氏が決まりました。また会計監査（3名）では小暮監事に加え堀口隆嘉（武蔵野市開業 昭33：新任）、福田陽一（微生物学教授：新任）の両氏が承認されました。総会後、会の発展に寄与戴いた校友6名に対し、日比野会長より感謝状と記念品が贈呈されました。

平成12年度アニマルメディカルセンター支援基金研究助成金が、鯉江 洋助手（総合臨床獣医学）の「犬の僧帽弁閉鎖不全症における心エコー検査と心房ナトリウム利尿ペプチド（ANP）の関連性について」と浅野和之助手（獣医外科学）の「ANMECにおけるInterventional Radiologyによる低侵襲治療法の確立」に対し、それぞれに30万円と20万円授与されることに決定しました。

獣医学科の近況

○獣医師国家試験

第51回獣医師国家試験の結果が平成12年3月21日に発表されました。生物資源科学部からは新卒者143人が受験、128人が合格しました。合格率は89.5%で、全国平均の82.0%を大幅に上回りました。

○表彰、受賞、学位等の授与

卒業生の石川路津子さんが総長賞と学部長賞を、柴未歩さんは学部長賞、猪口みどりさんは獣医師会長賞を授与されました。また、本学長谷川篤彦教授が日本医真菌学会賞受賞（動物由来の皮膚糸状菌に関する研究：特に *Microsporum canis* の完全世代の解明）の功績により学部長賞を授与されました。

角笛会会長賞は、忝本 隆志君と千葉幸江さんに授与されました。

平成12年2月、静岡県で開催された平成11年度日本獣医師会年次大会において、勝部泰次教授が公衆衛生部門「功労賞」、田中茂男教授（他5名）が小動物部門「奨励賞」、巨敏広助教授（他3名）が小動物部門「学術賞」を受賞されました。さらに、稲葉右二元教授が産業動物部門「功労賞」を受賞されました。

今年度、論文を提出により博士（獣医学）を取得された方たちは、藤田桂一氏、黒木俊郎氏、竹内哲也氏の3名です。

○獣医学科入試・入学状況

現在、本学では種々の方法で入学者の選抜が行われていますが、獣医学科のそれぞれの受験状況は以下の表に示すとおりです。

選抜方法	募集人員	受験者数	合格者数	競争率
指定校推薦（普通科）	学部全体で77名	24 (16)	14 (11)	1.7
指定校推薦（関連産業後継者）	学部全体で33名	1 (0)	1 (0)	1.0
公募制推薦（普通科）	学部全体で66名	50 (35)	8 (7)	6.3
公募制推薦（関連産業後継者）	学部全体で33名	16 (6)	7 (3)	2.3
公募制（技能）	学部全体で22名	8 (6)	2 (2)	4.0
本校試験	50名	2,207 (1,092)	94 (53)	23.5
地方試験	10名	590 (294)	30 (18)	19.7

() は女子

以上の激戦を勝ち抜いて本年度獣医学科に入学した1年生は164名（男子69、女子95）でした。

○退職

勝部泰次教授（獣医公衆衛生学）、岡野真臣教授（獣医組織発生学）、井上勇教授（医動物学）、甲賀美也子副手、松田陽子副手、高玉清恵副手、中山陽子副手が退職されました。

○昇格・移動

湯川真嘉助教授（実験動物学）、浅野隆司助教授（獣医薬理）が教授に、村杉栄治助教授（第2内科学）が研究所教授にそれぞれ昇格されました（平成12年4月1日付け）。

○新任

中西照幸教授（平成11年10月着任、魚病学）、渋谷久専任講師（獣医病理学）、大谷功助手（獣医生理学）、椎橋孝助手（医動物学）、中村遊香助手（獣医内科学）が採用されました。



（中西照幸教授）（渋谷久講師）（大谷功助手）（椎橋孝助手）（中村遊香助手）
（丸山 総一）

満喜葉会

◇畜産学科・動物資源科学科◇

連絡先 畜産食品科学研究室
0466-84-3661 事務局長 宮原 晃義

満喜葉会役員会開催

平成12年6月10日(土)午後2時より日本大学生物資源科学部湘南校舎第1会議室において、平成12年度満喜葉会役員会が開催されました。役員会は岩間脩会長挨拶の後、会則に従って岩間会長を議長として議事に移り、平成11年度事業経過並びに会計決

算が事務局より報告され承認されました。また、会計監査より監査結果についての報告がなされ承認されました。次に、平成12年度事業計画並びに予算案が事務局より提案され、審議後承認されました。その後、動物資源科学科学科主任中西五十教授より学科の近況と新任教員の紹介がありました。

今回、満喜葉会の活動を準会員に周知していただく試みとして、準会員に役員会への参加を呼びかけたところ、12名が参加していただきました。参加された準会員からも就職問題など様々な意見が出され、今後の満喜葉会運営にとって有意義な役員会となりました。その後、午後4時より食堂棟2階教職員食堂にて準会員を交えて懇親会が行われました。



学科の近況

平成12年4月1日付で泉水直人助教授(動物育種学研究室)が教授に昇格されました。また、同日付で加野浩一郎専任講師(写真)が着任されました。加野専任講師は平成元年3月に本学畜産学科を卒業後、神戸大学大学院に進学し、平成6年3月には博士後期課程修了とともに博士号を取得されました。また、同年に神戸大学農学部助手として採用され、平成12年3月末日まで教育・研究に従事されていました。本年度から動物生体機構学研究室に所属し動物発生学等を担当されます。

平成12年3月31日付で丹羽佳苗副手が退職されました。後任として平成12年4月1日付で杉山麻衣子副手(写真)が採用されました。杉山副手は平成11年度本学動物資源科学科を卒業し、現在動物栄養科学研究室に所属されています。



専任講師 加野浩一郎



副手 杉山麻衣子

事務局だより

今後の円滑な名簿作成と発行を行うに当たり、転勤による住所変更、結婚などによる氏名の変更の際には、お手数でも事務局までご連絡ください。

(園田 豊)

い も づ る 会

◇食品経済学科◇

連絡先 食品資源研究室
03-3421-5859 事務局長 下渡 敏治東京校舎最後の
幹事会・懇親会を開催

2000年度の幹事会及び懇親会が去る6月3日(土)、午後4時30分から銀座アスター三軒茶屋賓館で開催され、学部・学科移転に伴う東京校舎での最後の幹事会ということもあって、懇親会には70余名の正・準会員の参加がありました。懇親会は村山進会長の挨拶の後、来賓として生物資源科学部校友会富澤寿樹副会長、生物資源科学部長佐々木恵彦先生より祝辞を頂戴し、生物資源科学部事務局長山内二夫先生の音頭で乾杯が行われ、歓談へと移りました。また、長い間いもづる会の発展にご尽力頂きました三木敏夫名誉会長に対して、感謝状と記念品が贈られました。

《学科よもやま話》

【新入生】今春、食品経済学科は158名の新入生を迎え、恒例の新入生研修会は4月22日(土) 鶴沼海岸で地引き網を中心とした歓迎会が行われました。昼食は自分達で獲った魚の料理を食べながら、大学での授業やサークル活動などの話で大いに盛り上がっていました。

5月12日(日)に行われた学部・短大運動会『スポーツフェスタ2000』では、見事、総合優勝(昨年は準優勝)に輝きました。

【オープンキャンパス】7月31日(月)に開催されたオープンキャンパスでは、“理系学部にあるユニークな文系学科”としての役割をアピールし、パソコンを利用した「あなたの食事-外国依存度は?、栄養バランスは?-」のコンピュータ診断は、昨年同様、受験生だけではなく、学部教職員からも注目されるなどして、当日は100名を超える受験生が食品経済学科に興味を示していました。また、本年度は夕方から食品経済学科OB教員との懇談会を開催しました。懇談会では、中・高等学校の教育・生徒の実状や生徒の食品経済学科に対する関心と評価などについて、夜遅くまで、熱心に議論が行われました。遠方からご出席頂きました山下正倫先生(沼津学園高)、富岡教之先生(都立荒川商業高)、箱崎雄祐先生(県立久慈農林高)、松倉光徳先生(県立名久井農業高)にはお礼を申し上げます。



2000年度いもづる会懇親会会場

【特別講義】今年で9年目を迎える3年次開講の特別講義は12月の3日間、「製粉企業の置かれている環境とその経営戦略」と題して、日本製粉㈱前代表取締役高橋章夫氏によって集中講義の形で実施されます。

【箱根駅伝】新春に行われる『箱根駅伝』(本年総合5位)で過去3年連続、日大のレギュラー選手として活躍している渡辺尚幹君(5区:山登り)と成瀬貴彦君(10区:アンカー)の2名は、当学科に在籍しています。現在4年生の彼らは、来年のお正月もその雄姿を箱根の山に見せてくれることと思います。どうぞ、ご声援下さい。

【人事】学科のためにご苦勞頂きました大澤真弓副手が、任期満了に伴い本年3月末日をもって退職され、後任として北川ひとみ副手(平成12年3月本学部国際地域開発学科卒業)が着任されました。

(木島実)

あすなろ会

◇林学科・森林資源科学科◇

連絡先 森林環境保全研究室
0466-84-3675 事務局長 石垣 逸明

E-mail: i-ishigaki@brs.nihon-u.ac.jp

平成11年度総会・懇親会を開催

平成11年10月15日(金)午後4時半より日本大学会館において平成11年度あすなろ会総会・懇親会が開催されました。総会では平成10年度の事業報告・会計決算報告および平成11年度事業計画・会計予算が提案され、承認されました。総会終了後、会館内ホールにおいて行われた懇親会には、茂澤校友会会長、各分会会長、門田学部長はじめ多数の方々のご出席をいただき、和やかに盛大な会合となりました。なお、次回のあすなろ会総会・懇親会は、平成13年秋に開催を予定しております。次回も多くの方々のご出席をお待ちしております。

平成11年度あすなろ会会長賞受賞者

平成11年度あすなろ会会長賞に下記の6名が決定し、平成12年3月23日品川プリンスホテルにおいて行われた卒業記念謝恩会にて、賞状と記念品の銀杯が贈呈されました。この賞は、人物、成績とも優秀で、しかも、学科で学んだ関連分野へ就職または進学する者に対して贈られ、各ゼミより一名ずつが受賞するものです。

坂川 登(森林・緑地造成ゼミ 湘南造園(株))
村田拓也(林業経営ゼミ 江間忠木材(株))
永井ひろ子(木材科学・工学ゼミ (株)大和ガーデン)
宮島美穂(森林・緑地保全ゼミ 福助工業(株))
間平恵美子(森林動物ゼミ 近鉄ホーム建設(株))
伊藤研介(住宅・流通ゼミ 住友林業緑化(株))

新入生歓迎会が開催される

毎年恒例となっている森林資源科学科新入生歓迎会が5月14日の学部運動会終了後、湘南キャンパス

食堂棟において行われました。学生、教員とも運動会の後とあって、あすなろ会より差し入れの飲み物も好評で、盛大な歓迎会となりました。新入生と教員が一堂に会するのは入学ガイダンス以来で、大いに親睦を深めることができました。なお、本年度の新入生は136名(男子77名、女子59名)です。

学 科 の 近 況

学科のためにご尽力頂いた香取佳子副手が4月1日付で食品科学工学科へ転出され、後任として益田好恵副手(本年3月本学部森林資源科学科卒業)が着任されました。さらに、東京農工大学より木平勇吉先生が4月1日付で住宅・木材流通研究室の教授として着任されました。先生は京都大学農学部林学科のご出身で、日本林学会会長、森林GISフォーラム会長、ユフロ第4部副部長、森林計画学会副会長を歴任され、現在は林政審議会委員としてご活躍されております。今後の更なるご活躍が期待されます。



木平勇吉教授



益田好恵副手

事務局より

本年の就職環境は、男子学生には幾分明るさが見られるものの、女子学生にとっては相変わらず厳しいものとなっております。就職に関する情報をお持ちの会員諸氏は、上記連絡先までご一報いただければ幸いです。

前報でもお願いいたしましたように、会員の動向を的確に把握するため、住所変更、氏名の変更などがございましたら、お手数でも事務局までご連絡下さい。また、今後の本校友会活動をより円滑に行うため、すでにご案内済みの終身会費納入にぜひご協力下さいますようお願い申し上げます。

(宮野 則彦)



森林資源科学科新入生歓迎会

桜 水 会

◇水産学科・海洋生物資源科学科◇

連絡先 水産生物学研究室

0466-84-3677 事務局長 小橋 二夫

代議員会・総会

平成12年度代議員会・総会を平成12年7月1日に湘南校舎1011講義室にて開催、事務局長から平成11年度事業報告案、会計幹事から同決算報告案が提案され、承認されました。さらに平成12年度事業計画案および予算案が提案され、これも承認されました。

代議員会・総会終了後、会場をNUSCホールに移して、佐々木学部長をはじめ各分会の代表を来賓としてお招きして懇親会が開催されました。

平成12年度の事業計画案は

1. 代議員会・総会・懇親会の開催
2. 会報24号の発送と25号の発行
3. 卒業生への記念品の贈呈
4. 理事会の開催
5. 学科教員との会合の開催
6. 桜水会創立50周年記念事業準備委員会の発足
7. 財政等検討委員会の発足
8. その他

となっております。平成14年に桜水会が50周年を迎えますのでその記念事業の計画のための委員会と年々財政事情が悪化していく現状の打開策を検討するための委員会をそれぞれ発足させ、現在までに各委員会が2回の会合を持っております。各委員会のメンバーを紹介致します。

50周年記念事業準備委員会

運営責任者： 櫻木 進（副会長 10期）

委員：竹内 均（2期）、添田秀男（3期）、鳥居太郎（13期）、相沢 実（16期）、平栗洋一（23期）、杉田治男（24期）、大内雅功（35期）、宮下一明（38期）、仁科武志（43期）、小長谷幸史（45期）、小橋二夫（13期、事務局長）

財政等検討委員会

運営責任者： 村上泰義（副会長 20期）

委員：大谷木緑四郎（2期）、竹内 均（2期）、柴山左武郎（5期）、中坂幸蔵（7期）、佐藤 孝（8期）、吉原喜好（14期）、吉田良之（15期）、武井 司（21期）、松宮政弘（27期 会計幹事）、安斎 寛（27期）、荒 功一（38期 庶務幹事）

創立50周年を迎えようとしている桜水会、1ヶ台の卒業期の会員の皆様の多くが、最初の努力を退職され、第2の人生を歩まれているものと思います。今まで忙しすぎて参加出来なかった校友会活動に積

極的にかかわってみませんか？

そして息子や娘以上に若い会員や準会員に校友会活動に関心を持つように色々と御指導を頂けたらと思っています。

学 科 の 動 向

御退職：清水 誠教授（漁業生産学研究室）、大岩弘美副手（水産生物化学研究室）が3月31日をもって退職されました。

新 任：清水 誠教授の後任に谷内 透氏（前東大大学院教授）、大岩弘美副手の後任に長野 香さん（平成12年3月本学科卒）が4月1日付けで着任され



谷内 透教授



長野 香副手

ました。谷内教授は板鰒類の研究では世界的な権威で、着任早々積極的に学生を指導されております。

昇 格：4月1日付けで吉原喜好助教授（水産資源情報学研究室）が教授に、小島隆人専任講師（漁業生産学研究室）が助教授に昇格されました。

帰 任：昨年7月からカンザス州立大学に留学しておられた松宮政弘専任講師（水産利用学研究室）が2月5日に帰任致しました。留学中はキチナーゼの構造と機能というテーマで研究を行い、その成果は今後の先生のご研究や教育に反映されるものと考えております。

大学院改組：従来の農学研究科が廃止になり、新たに生物資源科学研究科が設立されました。いままでは、本学科の教員は農学研究科水産学専攻に所属しておりましたが、今回の改組で、それぞれの専攻に分属することになりました。

生物資源生産学専攻水圏生物生産科学分野

谷内透教授、廣瀬一美教授、杉田治男教授、吉原喜好教授、小島隆人助教授

生物資源利用学専攻生物資源利用学分野

望月 篤教授、松宮政弘専任講師
応用生命科学専攻生物分子科学分野

内田直行教授

生物機能科学分野：朝比奈 潔教授

生物環境科学専攻環境創造保全学分野

広海十朗教授

（吉原 喜好）

工 学 会

◇農業工学科・生物環境工学科◇

連絡先 農地整備学研究室

0466-84-3694 (FAX兼用) 事務局長 斎藤 公三

E-mail:ksaito@brs.nihon-u.ac.jp

—生物環境工学科—

初の卒業生が巣立つ

学科名称の変更にもない、本年からは生物環境工学科の卒業生として122名の校友が卒業（卒業者は126名、内4名は農業工学科）していきました。学科の名称は変わっても校友会はかわりませんので、校友の皆様におかれましてはよろしくお願いいたします。

総会と懇親会開催

平成11年11月20日15時30分より、湘南1011講義室において総会が開催された。平成10年の理事会ならびに役員会が諸事情により会議室ではなく講義室で

行われた際、講義室で講義を受けていた頃の学生時代の郷愁に浸ることができてよかったという意見も踏まえて、総会は1011講義室で行われた。議長選出に村田会長を選出後、事務局長より平成10年度の一般経過報告が、会計係より平成10年度の決算報告が行われ、満場一致で承認された。続いて、平成11年度の事業計画案および予算案の審議が行われ、承認された。

懇親会は同日の16時30分より、食堂棟のNUSCホールで開催された。副会長の酒川氏の司会で会長挨拶、他校友会の紹介、工学会の新3役の紹介が行われた後、茂沢学部校友会会長、佐々木学部長からお祝辞の言葉をいただいた。この後、表彰式が行われ、長い間、工学会のためにご尽力いただいた白岩先生にその功績と感謝の気持ちを込め賞状が贈られた。また、戸崎紘一氏に校友の名を高めたことに對する表彰が行われた。工学会の理事でもある戸崎紘一氏(昭和39年卒)は「誘導ケーブル式果樹無人防除機の開発研究」の研究テーマで農業機械学会森技術賞を4月の学会年次大会で受賞されました。生物系特定産業技術研究推進機構で長年にわたり農業機械の研究・開発に携わってこられた研究成果が評価された結果と思われます。これは後輩の校友には励みとなることでしょう。おめでとうございます。更なる精進をお願いしたいと思います。なお戸崎氏は、この賞を受賞されたことから学部長賞も受賞されました。

この後、懇親会は森嶋先生の乾杯の音頭で佳境に入ったが、何十年ぶりという人も数人おられたように見受けられた。19時に懇親会は和気藹々の内に終了となったがこの後、2次会に行かれた校友の方々もかなりおられたようです。



学科の近況

平成11年11月より、河野英一が学部次長に就任されました。また、世良田和寛教授が学科主任に選出されました。両先生には学部、学科のためにご尽力をお願いしたいと思います。

平成11年11月8日をもって白岩教授が、また本年3月31日をもって長島教授が退職されました。長い間、本学科のためにご尽力いただきまして有り難うございました。両先生のご健勝をお祈りしたいと思います。

本年4月、土木施設工学研究室の山野隆康教授の



後任として中村良太教授が着任されました。中村先生は東京大学で教鞭を執っておられました。これからのご活躍を期待したいと思います。

木谷教授が「農業機械のエネルギー有効利用に関する研究」で本年4月6日、山上会館において日本農学会賞及び読売農学賞を受賞されました。また、生物生産機械学研究室におられた山沢元教授が春の叙勲で勲三等旭日中綬章を受けられました。両先生、誠におめでとうございます。

(川西啓文)

F T 会

◇食品工学科・食品科学工学科◇

連絡先 食品学研究室
0466-84-3981 事務局長 竹永 章生

E-mail: takenaga@brs.n:hon-u.ac.jp

平成11年度活動報告

平成12年度のF T会理事会が7月8日(土)に日本大学生物資源科学部湘南校舎にて開催された。理事会では平成11年度事業報告および会計報告が行われ、承認されました。また同時に、平成12年度事業計画および会計予算についても討議され、承認されました。

また、3月には食品科学工学科から155名の学生が卒業され、F T会から全卒業生へ記念品が贈呈されました。学業および人物優秀な学生へ贈られるF T会長賞には坂本 佳子さんが選ばれました。坂本さんは現在、大学院に進学され、日々勉強に励んでいます。7月にはF T会の補助のもと、3年生と教員との懇親会が行われ、研究室配属および就職活動を控えた3年生が教員や先輩たちと和気藹々と歓談する場面が至るところでみられました。

学 科 の 近 況

＜移転および研究室名改称＞食品科学工学科は平成12年2月より長年、慣れ親しんだ東京校舎から湘南校舎へ移転しました。食品科学工学科は12号館5、6階に研究室および実験室を構えています。また、平成12年4月より、食品製造学研究室(旧1研)、食品理化学研究室(旧4研)、食品保蔵学研究室(旧5研)、食品分析学研究室(旧6研)が研究室名を改称しました。

＜昇格および新任＞平成12年4月1日付で荻原博和専任講師、今井正直専任講師が助教授に昇格され、細野 朗先生が助手として採用されました。細野先生は明治製菓(株)を退社後、東京大学大学院生命科学研究科博士後期課程へ進まれ、平成12年に農学博士の学位を取得されました。現在、「食品成分と消化管粘膜免疫の生理学的機能に関する研究」をされています。また、平成12年3月31日付で退職された前川由紀子副手の後任には森林資源科学科で勤務されてました香取佳子副手(平成10年3月本学農芸化学卒業)と新垣朋子副手(平成12年3月食品科学工学科卒業)が着任されました。

＜紫綬褒章＞

食品微生物学研究室の山崎真狩教授が春の褒章におきまして数々の優れた功績により紫綬褒章を受章されました。

現在、食品科学工学研究室は以下のように構成されています。

食品化学工学研究室(12号館5階、旧2研)

: 鈴木 功 教授
今井正直 助教授
陶 慧 助手

食品製造工学研究室(12号館5階、旧3研)

: 鈴木和威 教授
鈴木公一 専任講師
阿部 申 助手

食品微生物学研究室(12号館5階、旧食品保蔵学研究室、旧5研)

: 山崎真狩 教授
荻原博和 助教授

食品衛生化学研究室(12号館6階、旧食品分析学研究室、旧6研)

: 武田明治 教授
千野 誠 専任講師
松藤 寛 専任講師

食品機能化学研究室(12号館6階、旧食品製造学研究室、旧1研)

: 中村 良 教授
木村貞司 助教授
細野 朗 助手

食品学研究室(12号館6階、旧食品理化学研究室、旧4研)

: 伊藤真吾 教授
竹永章生 専任講師

学科事務室(12号館5階)

: 香取佳子 副手
新垣朋子 副手



細野先生



香取さん



新垣さん

計 報

長年、F T会の活動にご尽力いただきました副会長の犬瀧博久氏が平成12年2月7日心不全のため、永眠されました。享年51歳でした。謹んでここにご冥福をお祈りいたします。(阿部 申)

拓 友 会

◇拓植学科・国際地域開発学科◇

連絡先 国際経営研究室
03-3421-6437 事務局長 早川 治

E-mail: osamu@ca.mbn.or.jp

平成12年度拓友会総会

平成12年8月5日、原宿「南国酒家」翡翠の間において、平成12年度拓友会総会・懇親会が開かれました。

総 会

会長挨拶に続き近藤会長を議長に選出し、議事にはいりました。議事の内容は以下の通りです。事業計画を中心にまとめました。

- (1) 平成11年度事業報告（承認）
- (2) 平成11年度決算報告・監査報告（原案承認）
- (3) 平成12年度事業計画（案）
- 1、平成12年度拓友会総会の開催
 - 1) 総会開催
月日：平成12年8月5日（土）
時間：午後4時～5時
場所：原宿「南国酒家」翡翠の間
- 2、幹事会の開催
 - 1) 第1回幹事会
月日：平成12年11月30日（木）午後5時から、
場所：日本大学生物資源科学部東京キャンパス
 - 2) 第2回幹事会
月日：平成13年3月30日（金）午後6時から
場所：日本大学生物資源科学部東京キャンパス
- 3、名簿の整理
- 4、「拓友会会報第24号」の発行 平成12年7月発行
- 5、宮崎賞・拓友賞の授与
 - 1) 宮崎賞 鄭健鴻
 - 2) 拓友賞 若干名（未定）

6、卒業生への記念品授与

男子学生に「タイピン」、

女子学生に「スカーフ留め」

(4) 平成12年度会計予算（原案承認）

(5) その他

総会開催日を毎年6月最終土曜日とすることを決定。（承認）

懇 親 会

懇親会は総会終了後、翡翠の間で開かれ、茂澤早学部校友会会長ら来賓の方々のご挨拶を頂き、宮崎賞等の表彰と続き、広瀬昌平教授の音頭により乾杯、その後歓談が行われ、浜口副会長の挨拶でお開きとなりました。

拓友賞・宮崎賞

同級生をまとめるなど学生時代に活躍し、将来の拓友会を担う拓友賞は、平成11年度は杉本登くに決まり、卒業式の学科卒業証書伝達式において浜口副会長から授与されました。

また、留学生の奨学賞として与えられる宮崎賞は鄭健鴻くん（2年次・マレーシア）で、12年度懇親会の席上で、近藤会長から授与されました。



宮崎賞授与式



拓友会オールドメンバーを中心として

学科の動き

◇昇格 上原秀樹先生が、平成12年4月助教授から教授に昇格されました。今後のご活躍を期待いたします。

(緒方 行廣)



◇短期大学部農学科◇

連絡先 応用花学研究室

0466-84-3742 事務局長 武田 恭明

総会・懇親会開催

平成12年度むつあい会は6月10日(土)15時より湘南校舎本館第一会議室で開催されました。

その次第は、富樫利男副会長の開会の辞で始まり富澤寿樹会長の挨拶に続いて、議長に斉藤忠雄幹事(4期)を選出、平成11年度むつあい会一般経過報告を土岐知久事務局長が、事業報告を富澤会長が行い報告通り承認されました。さらに平成11年度会計報告を広長正会計が行い、引き続いて滝沢章監事から監査報告があって、報告通り承認されました。その後、従来は懇親会で行う短大農学科の現状報告を、懇親会の挨拶が多過ぎるとのお叱りもあって、土岐科長が総会内のここで現状報告を行い、なごやかに終了し、鈴木勝春副会長の閉会の辞で締めくくりました。懇親会場に移動しながら農芸化学科と食品科学工学科が事務では教務課と学生課が4月から始動している12号館とギャラリー館を見学しました。

懇親会は17時から短大棟である5号館3階5号教室で開催されました。講義室での懇親会ということもあって皆さん学生気分に戻り「たまにはいいな」と好評の様でした。来賓として佐々木恵彦生物資源科学部・短期大学部次長をはじめとして、校友会会長茂澤早氏、各分会分会長のご臨席のもと、短大農学科の先生方の出席もあって盛大に開催されました。

懇親会は、横関敏治幹事の開会の言葉の後、富澤会長の挨拶、茂澤校友会会長のご挨拶があり、続いて佐々木学部長からめざましく発展する湘南キャンパスの展望や21世紀は生物資源活用の時代であるという有意義なお祝いのご挨拶がありました。この後懇談では十数名の準会員も加わり、先輩会員の励ましや思い出話に花が咲きにぎやかに進行了ました。

総会の参加者は例年と同じ程度で、ややさびしさを感じましたが、来年の総会はさらに多くの参加者を得て、盛大に開催できるよう皆様のご出席をお願い致します。なお、総会のお知らせは経費節減のために会員個々にはせず、4月にお届けする「むつあい会会報」の最後のページの囲み記事として掲示することが5年前より決まり実施されていますので、23号の「むつあい会会報」を見て、日程など確認いただき、早めに予定に加えて頂きたいと思ひます。

学科の近況

農学科では12年3月に53名(49期)が卒業して正会員となり、4月に66名(女子50名、男子16名)の新入生を迎えました。現在2年生は63名(女子42名、男子21名)で合計129名の準会員が在籍しています。

卒業生の進路状況

超氷河期といわれる厳しい就職状況の中にあって、卒業生53名のうち編入学したものが36名(約68%)が本学の学部(30名)や他大学の学部(6名)へ進学しました。就職は3名、専門学校・進学準備・アルバイトなどを含めたその他が14名となりました。

入学志願状況

平成12度の一般入学試験の志願状況は募集人員25名のところ、志願者数は163名で合格者は46となり、競争率は3.2倍で、11年度の4.0倍よりやや低下したとはいえ、合格点はむしろ高く、短大としては全国的にもトップクラスといえる。さらに優秀な学生が集まるよう農学科としても環境の整備に努力していきたいので、これまで同様、ご支援をお願いします。

農学科の21世紀に向けて

新短大棟の発足に伴い、学科内の研究室体制が変わりました。11年度までは5研究室でしたが、12年4月より研究内容がおもてに出て分りやすいよう、それまでの園芸学第一が応用花学(武田教授)と植物生態学(寺澤助教授)に、園芸学第二が野菜学(土岐教授)と植物資源利用学(渡辺教授)に分かれ、情報処理学が環境情報工学(青山助教授)に変わり、これまでの環境生態学(浅野助教授)、応用生物化学(安斎助教授)との7研究室になり、ひとり1研究室になりました。これを期に21世紀に向けて各研究室ますます教育・研究に成果をあげるよう期待するものです。



▲懇親会会場風景

事務局から

会員総数は2989名となりました。住所変更・居住表示変更や結婚などによる改姓があった方は、ご面倒でも事務局までお知らせ下さい。毎年20%以上に及ぶ配達不能が出ておりますので、よろしくお願ひ致します。(土岐 知久)

生活環境学科校友会

◇短期大学部生活環境学科◇

連絡先 環境科学研究室

0466-84-3750 事務局長 飯塚 統

10周年祝賀会

学科校友会設立10周年の記念式典とパーティーが平成11年11月3日、横浜ベイシェラトンホテルにて開催されました。1300人の卒業生の15%もの出席があり、設立当初の学部長、久木田先生を初め、佐藤昌介、鈴木たね子先生など当時の先生方、茂澤学部校友会会長他の招待客とで総勢259名の盛会でした。

準備に当たった役員は10周年の特別の機会を花も実もある楽しい会にしようと1年かけて企画を練りました。カップル、子連れの出席を歓迎し、在校生にベビーシッターを頼んだところ、9組の夫婦、7人の幼児、2組の婚約者同伴があり、ひとしお華やかな会になりました。

恒例のビンゴゲームのあとに10周年特別企画、海外旅行券の抽選に当たったのは、幼い娘の手を引いた1期生でした。

インターネットを見て下さい

IT時代に合わせて学科校友会の広報もホームページで見ていただくように掲載しました。前副手の浅井理恵さんが得意のパソコンスキルを発揮して作って下さった広報が今見られます。この会報では紙面も限られ色も使えませんが、ホームページでは上記の10周年パーティーの様子カラー写真で詳しく報告されています。また住所や姓の変更をこのホームページで連絡することもできます。

URL <http://www.brs.nihon-u.ac.jp/~jh-amigo/>

▼新築の短大棟の風景、屋上緑化、ビオトープの実験



▲10周年祝賀会

amigoとは友達のこと。日本大学のホームページからもリンクしています。インターネットにアクセスできる方達はぜひご覧ください。

学科の近況

学科長の交代と教授昇格

平成11年10月から学部長の交代にともない、飯塚統教授が学科長に就任されました。平成12年4月には飯尾満先生と阪本都子先生が教授に昇格されました。

新校舎への移転、IT設備

平成11年中に竣工した新5号館、別名短大棟、はキャンパスの西寄り、バラ園の隣にあります。平成12年4月から短大の両学科の研究室が初めて一つの建物にまとまりました。短大の講義はほとんどが3階の講義室で行われます。

屋上にはビオトープが設置されています。これは島田教授の研究課題の一例として、建物屋上を環境緑化に利用する試みです。

1階には学生が自由に使えるパソコン10台を備えたコンピュータ室があります。2年生の希望者には全員Eメールアドレスが配布されました。各研究室には学内LANへの接続口が6個あり、ここからも学生がインターネットにアクセスできます。

事務局より

今年度の校友会総会、懇親会は11月16日(木)、渋谷で開く予定です。詳細は同封のちらしを見て下さい。皆さんおでかけ下さい。

住所、氏名に変更のあった方は上記のホームページで、または葉書で飯塚教授へご連絡ください。

(大川 いづみ)

応用生物科学科校友会

◇応用生物科学科◇

連絡先 蛋白質科学研究室

事務局長 司馬 肇

TEL: 0466-84-3700 FAX: 0466-84-3700

E-mail: address: chang@brs.nihon-u.ac.jp

校友会の皆様へ

今年度から中嶋睦安先生に代わり司馬肇(旧名張培淦)が新事務局長となり、応用生物科学科(ABS)校友会事務局の運営を担当することになりました。また、会計は司馬肇に代わり新井直人先生が担当することになりました。校友会へのご意見、ご要望等がありましたら、ご連絡をください。

ABS校友会は、設立してから今年で9年目となりました。本校友会はこれまで総会・懇親会への出席者数や校友会費の徴収などといった慢性的な問題を抱えております。今年度の総会は間もなく開催されますが、今後の校友会の運営や活動方針とともにこれらの問題についても議論をする予定であります。校友会が発展するためには会員の皆様方のご支援とご協力は不可欠であります。会員の皆様が積極的に総会に参加し、多くのご提案をされるようお願いしております。

皆様のご参加を期待しております。

ABS校友会の現状と本年度の活動行事

校友会の会員は今春、142名の平成11年度卒業生(写真)を新たに迎え1243名となりました。準会員として614名が応用生物科学科に在籍しております。校友会活動の一環として、例年研究室対抗ソフトボール大会が行われていましたが、現在湘南キャンパスにおいて新たな高層ビルを建築しているため、今年度は研究室対抗バレーボール大会にいたしました。開催の日時は10月8日(日)を予定しておりますので、会員の皆様もチームを結成し、後輩たちと楽しい一日を過ごしていただきたいと思っております。

応用生物科学科の近況

現在、応用生物科学科在籍学生数は614名で、学年別には4年生148名、3年生151名、2年生145名、1年生170名となっております。大学院関係では、大学院農学研究科が改組され、生物資源科学研究科が設置されました。生物資源科学研究科は生物資源生産科学専攻、生物資源利用科学専攻、応用生命科学専攻、生物環境科学専攻、生物資源経済学専攻より構成されており、生物資源科学部の学科の枠にとられない、統合的な構成を特色一つとしております。

応用生物科学科の先生方は応用生命科学専攻を担当しています。なお、応用生命科学専攻に在籍する本学科の学生数は博士前期課程15名、博士後期課程3名となっております。

学科の人事に関しては、名取正彦教授が2000年3月でご退職されました。本年4月1日付で新井直人先生が専任講師に昇格されました。また、本学科の卒業生であります明石智義(生体分子学研究室出身)、岩淵範之(分子微生物学研究室出身)両先生が助手として、本年4月1日付で応用生物科学科のスタッフに加わりました。両先生の今後のご活躍を期待しております。

(司馬 肇)



平成11年度の卒業生

第9回総会の開催について

前年度(第8回)総会は平成11年11月27日(土)14:30より、湘南キャンパスNUSCホールにおいて開催され、平成11年度事業報告、同年度会計決算報告、平成12年度事業計画、平成12年度会計予算案に関する案件について審議・承認をいただきました。

平成12年度(第9回)の総会・懇親会は来る11月25日(土)14:30より湘南キャンパスNUSCホールにおいて開催する予定であります。多数の会員の

明石智義先生



岩淵範之先生



支 部 だ よ り

山形県支部の近況

第8回山形県支部総会は、平成12年2月19日天童温泉「檜風呂の宿つるや」において、会員37名参加で開催されました。安達副支部長の開会挨拶ではじまり、木戸支部長挨拶の後新関博夫（獣医）議長により協議に入った。

経過報告、会計報告、監査報告及び予算案が満場一致で原案どおり可決承認された。今回より、事務局を担当していただいている日本大学山形高等学校池田卓郎先生が事務局長に就任された。



当支部の恒例となった各学科代表による記念講演は、生物環境工学科担当となり、佐藤龍男氏（昭和44年卒）が「私の測量人生」と題して講演された。

〔東京で就職し、測量はいかに誤差を少なくするかが基本であるが、その当時の器具では誤差が大きかった。2年後山形に帰郷、さらに2年後に独立したが、99%が公共事業で入札制度のため大変苦労した。利根川の川幅と深さの仕事もやっている。〕

この仕事を行うには、安全管理と精度管理が大切でミリメートルの勝負であり、人工衛星で測定しコンピューター処理する」など、全員聞き馴れない話の一つ一つ聞きながら聞き入っていた。

今年は、本部より茂澤果学部校友会長に出席していただき、本部の活動状況及び他支部の活動について詳細に説明していただきました。校友会長及び本部事務局の皆様には心から感謝申し上げます。

懇親会には、今年度から日本大学山形高等学校事務局長に就任されました佐藤正弘先生も加わり、例年どおり各学科毎に近況と宣伝を交えた自己紹介があり、最後に参加者全員による日大節と校歌を斉唱し来年の再開を誓って散会となった。（小松 文嗣）

連絡先 〒990-2433
山形市鳥居ヶ丘4-55
日本大学山形高等学校
事務局長 池田 卓郎
TEL 023-641-6631

神奈川・生物資源科学部会

〔私大生き残り戦略〕

21世紀を目前に日本は少子社会になりつつある。すなわち、厚生省の推計によれば、日本の人口は2007年をピークに減少期に入る。そして早ければ2025年には、今より、1千万人減るという予測である。また、今春新入生数が入学定員を下回った私立大学が全体の3割近くに上り、私立短大では6割近くに達したことが、日本私立学校振興・共済事業団の調査結果である。

2010年からは、大学進学希望者は全員合格時代がやってくる。なぜこのような現象が起るのでしょうか。合計特殊出生率（1人の女性が生涯に産む子どもの数）は、1999年に過去最低の1.34人を記録し、まさに「少子社会」の到来である。

クラシック音楽の作曲家として世界的に著名なドイツのヨハン・セバスチャン・バッハは、生涯2度の結婚で20人の子どもをもうけたという新聞記事を



目にした。日本でも戦前は子供の数が7～8人という家庭がごく普通であった。戦時中の「産めよ殖やせよ」とまではいわないが、わが学部、生き残りのため、若い卒業生が出生率を高め、子女を母校へ進学させてくれることを期待しているこの頃です。

今年度の当部会の総会と懇親会を11月18日（土）横浜駅東口「崎陽軒」で開催致します。改めてご案内申し上げますので、多数ご出席下さるよう、お待ちしております。（会長 高坂 鉄雄）

連絡先 〒252-8510
藤沢市亀井野1866
日本大学短期大学部
環境生態学研究室
事務局長 浅野 紘臣
TEL 0466-84-3747

山梨県支部の活動状況

平成11年10月に県支部理事会を開催し、今後の支部活動について協議しました。平成12年1月に事務局会議を開き、秋の県支部総会の役割と内容について検討しました。6月30日には校友会山梨県支部の役員会が開催され、役員改選、支部の運営について協議しました。

今後の予定としては、10月上旬に日大明誠高校を訪問し、県支部会員有志からの災害見舞金を送付いたします。また、10月14日には石和観光温泉ホテルにて、大学側から茂澤校友会長、木村助教授をお迎えし、県支部総会を



開催します。おかげさまで県支部会員名簿も予定を越え頒布することが出来まして、特別会計を終結することになりました。今年は県支部を創設して15年になります。木村貞司助教授の講話と、学部校友会からいただいた50周年記念ビデオを映写して総会を盛り上げたいと思います。

連絡先 〒405-0017

山梨市下神内川187-1

支部長 小越 昭雄

TEL 0553-22-2400

第12回高知県支部総会

第12回高知県支部総会は、平成12年8月26日高知駅南のホテル高砂において、校友会本部より茂澤会長、学部より食品科学工学科の木村貞司助教授をお迎えし、支部会員20名の参加を得て開催された。

開会にあたって中西支部会長より、本部総会の報告、支部活動のさらなる活発化、支部相互の交流の構想等の挨拶がおこなわれた。続いて茂澤会長よりご祝辞を頂戴した後、木村助教授からは、学部の近況や少子化へ向けての大学の取り組みについて、ご用意いただいた詳細な資料をもとにご紹介いただいた。

引き続き支部会長を議長に選び、議事にはいる。平成11年度事業経過および収支決算報告、平成12年度活動方針および予算が上程されいづれも満場一致で可決承認された。また県支部名簿の整理・充実について検討された。

続いて同ホテル内の宴会場にて、島崎支部参与の乾杯のご発声で来賓を囲んでの懇親会がはじまる。木村助教授は本部事務局長も兼任されており、支部総会では事務局長としての大学の近況紹介に時間をさかれたため、



「食品科学工学科のPRが足りなかった。」とこの場で学科パンフレットが回覧され食品科学工学科の近況が紹介された。その後懇親会もすすみ、例年のごとお酒も相当量消費され、飲み放題の会計にしておいて良かったとつくづく感じる事務局であった。最後に森田副会長の音頭により参加者全員で校歌の斉唱をおこない、来年度総会での再開を誓って散会となった。

尚、掲載写真と参加人数に多少のズレがある。これは会場の仲居さんに撮影をおねがいた写真が見るに耐えない仕上がり（笑）であったため、会員がテスト撮影した写真をやむなく使用したからである。ご容赦願いたい。

連絡先 〒780-0084

高知県高知市南御座9-19

事務局 前川 卓也

TEL 088-880-0538

福島県支部が設立総会

福島県支部は、平成12年5月12日に設立総会を開き発足致しました。支部発足に当たりましては、現在の工学部事務次長の森栄一先生の御尽力に依るところが多でありました。総会当日には、茂澤会長、地元工学部校友会の佐藤光正会長、森栄一工学部事務次長の出席を戴きました。又7月8日に湘南校舎で開催されました総会の席で承認を戴き、福島支部として活動を始めることと成りました。

支部活動については、未熟者ですので、学部校友会の御指導を戴きながら先輩支部の山形支部とも連絡を取りながら活動を推進して参りたいと考えております。福島県内の各校門会の皆さんの協力を戴きながら地域別の分会を支部内に数カ所開きながら会員の拡大に努めたいと考えています。幸い卒業生の動向については、創立50周年記念として作成されたCD-ROM名簿を活用させて戴きます。年間の行事計画等については、役員会で検討中ですが、主に会員の親睦を深めること、若手会員との交流を計ることを中心にしていきたいと考えています。

連絡先 〒961-0021

福島県白河市大字関辺字上の原27番地

事務局 佐川喜四郎

TEL 0248-27-2854

Fax 0248-27-2879

校 友 便 り

口蹄疫雑感

角笛会会員、昭和37年卒、現在日本
大学生物資源科学部獣医学科勤務

門井 克幸

はじめに

人のエイズ（後天性免疫不全ウイルス症候群）は、非加熱製剤の一部に病原ウイルスの汚染があったことから、痛ましい医原病患者が発生し、当時の厚生行政の欠陥が指摘されましたのは記憶に新しいところです。エイズのような人の疾病に比べて、家畜の感染症は、一般の人に知られる機会は多くありません。ところが、今年になって、日本ではあまり馴染みの無かった口蹄疫という病気がいろいろな意味で獣医・畜産関係者以外にも知られるようになりました。

口蹄疫とは

口蹄疫というウイルス性伝染病は古くはヨーロッパ、中近東、アフリカ地域に蔓延していた疾病で、肉類を主食としたこれらの地域の人々には知られていましたし、牛、豚、羊などの偶蹄類のウイルス性感染症として最も恐れられている伝染病です。この病気は日本では、明治44年に海外から導入した牛が検疫所で発症したと記録されているだけで、長い間全く他国の感染症として考えられてきました。ところが1997年3月に突然、台湾の豚に本病の大発生が起こりました。それまで、本病の汚染の無かった台湾では、400万頭余の豚を殺処分し、感染の疑いのある牛も殺処分されました。たった一つの伝染病によって台湾の畜産は壊滅的な打撃を受け、その残り火はいまだにくすぶっている有様です。

口蹄疫ウイルスとのかかわり

私は日本政府の海外技術協力計画の口蹄疫専門家として、1971年から約2年間エジプトの発足間もない口蹄疫研究所に赴き、口蹄疫に発症したバッファローの舌病変組織の採取、ウイルス分離、血清型別、不活性ワクチンの試作などを指導したことがあります。現地では口蹄疫の伝染性の速さからSailing diseaseと呼ばれていました。エジプトでの業

務で体調を損ない、日本に帰国し、母校である日本大学の駿河台病院で1年間の加療を受けた後は、さらに口蹄疫の研究を続けるため、米、英、独、伊の4カ所の研究所に自分の希望を連絡し、最初にオファーが来たイタリアに渡り、1978年に母校に奉職するまで、パドバ大学の獣医学研究所で口蹄疫ウイルスと豚水疱病ウイルスの研究に没頭したことがあります。

台湾のケースは異例中の異例

その間、トルコで開かれたヨーロッパの口蹄疫撲滅研究会の会議に日本政府のオブザーバーとして出席し、各国の経験豊かな代表者と一緒の旅をイスタンブールからアンカラまでしたこともあります。その当時には、台湾に発生したような激しい豚の症例はいずれの国でも経験していませんでした。1993年にヨーロッパの一部に臨床症状の激しい豚の症例の発生がありましたが、同様な事件は今回の台湾のケースまでは皆無の状態に推移しました。おそらく、静かな遺伝子の変異が起きていたのでしょう。これはあくまで私の私見ですが、台湾の畜産界が本病発生以前の状態に復帰するには、10年以上の歳月が必要だと思います。

まとめ

平成12年3月25日に九州の宮崎県下で初発例が認められ、その後5月に北海道の一部にも陽性例が認められました。

しかし、幸いにも今回の両地域での口蹄疫は収束した感があります。僥越ながら一言私見を述べさせて頂くとしたら、結果的に不幸中の幸いであったともいえる事件でした。多分、感染ウイルスは病原性の強い野外毒ではなかったのかもしれませんが、とにかく、獣医・畜産関係者に海外悪性伝染病の侵入の可能性を示唆し、防疫の必要性を喚起したことは間違いないといえます。



牛の舌病変



羊の舌病変



豚の蹄病変

